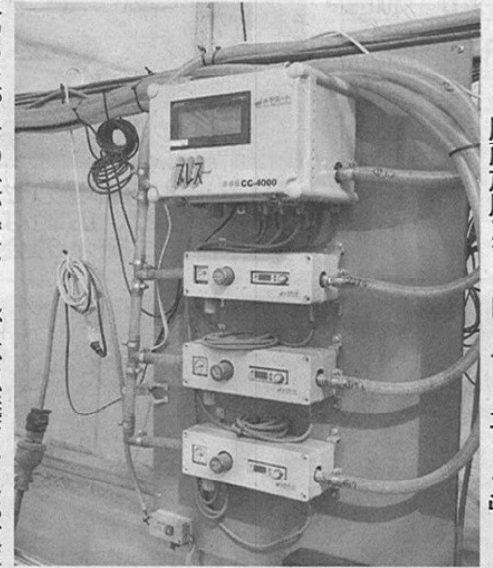


# 群馬県佐波郡玉村町

## キュウリ農家・町田睦美さん

群馬県の高崎市と伊勢崎市に隣接した佐波郡玉村町の利根川のそばでキュウリ農家を営む町田睦美さん(47)は、栽培面積20畝の土地で、施設栽培を行っている。昨春秋、株テヌート(東京都港区南麻布3の20の1 Daiwa麻布テラス5F)のCO<sub>2</sub>局所施用コントローラシステムである「ブレス」を導入した。

しかし、27歳の時に転機が訪れる。販売も接客も好きだったが、このまま60歳までこの職業を続けるのかと自問自答し、手に職を付けたいと思う。かつて両親が所属していた農地にハウスを再建。結果的に跡を継ぐよりな形で母親と二人三脚でキュウリ農家を再開した。今に至る。現在は高齢となり、妻の州代さんと共に営農している。



CO<sub>2</sub>局所施用コントローラー「ブレス」

### テヌートの「ブレス」を導入

## CO<sub>2</sub>局所施用で劇的変化

「職人は経験を積んでいく世界。を頼り、一からすべてを

建。結果的に跡を継ぐよりな形で母親と二人三脚でキュウリ農家を再開した。今に至る。現在は高齢となり、妻の州代さんと共に営農している。

群馬県の高崎市と伊勢崎市に隣接した佐波郡玉村町の利根川のそばでキュウリ農家を営む町田睦美さん(47)は、栽培面積20畝の土地で、施設栽培を行っている。昨春秋、株テヌート(東京都港区南麻布3の20の1 Daiwa麻布テラス5F)のCO<sub>2</sub>局所施用コントローラシステムである「ブレス」を導入した。

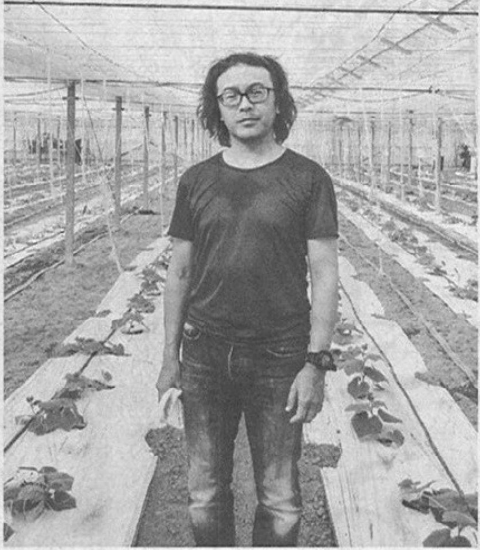
「職人は経験を積んでいく世界。を頼り、一からすべてを

建。結果的に跡を継ぐよりな形で母親と二人三脚でキュウリ農家を再開した。今に至る。現在は高齢となり、妻の州代さんと共に営農している。

# ポ

# 農家

# ル



今回取材に応じた町田睦美さん。圃場では秋作のキュウリの葉が出始めた

町田さんの栽培施設は、16畝の角形のポリフィルムハウスと4畝の丸型ビニールハウスだ。「メインの角形ハウスに手間も時間もかけているの型ハイスの方が多い。それに、ハウス内の温度を

上げてしまうので、それを冷やすためにエアコンを入れる。なんて無駄なことをするんだろう」と町田さんは思っていた。燃焼式は初期投資も高額で簡単に導入できるものではない。矢先に「昨年、知り合いの業者から、いいものがある」と紹介されたのが、株テヌートの「ブレス」だ。CO<sub>2</sub>ポンベを使用するた

め、植物が光合成する日中にハウス内の温度が上昇しない。その上、ホースからCO<sub>2</sub>を必要な部分だけに漂わせるように使用する局所施用ができる。州代さんの後押しもあって昨年10月に設置した。

秋作には間に合わなかったものの、春作から本格的に使用を開始した。「これまでと実の付き方が全く違いました。樹勢が良い。これまで実がつかなかった日があったらない下の方までびっしりでした」

変化は大きかった。ますますなキュウリを栽培するには、曲がったキュウリを小さいうちに摘み

取り、まっすぐなキュウリだけを残す。その摘み取った摘果キュウリも出荷する。それが昨年は4ケースほどだったが、今年には198ケースにもなった。A品率も大幅に上がり、トータルの出荷量が昨年比で121%と急増した。「これまで色々試行錯誤しながら栽培してきましたが、ここまで劇的に変わったのは初めてです」と町田さんは語った。

クボタ資 米国のス 収穫

木股社長

(株)クボタ(木股昌俊社長)は8月28日、ロボット技術をベースとした農業分野の自動化ソリューションを手掛ける米国のスタートア

クボタ資 米国のス 収穫

クボタ資 米国のス 収穫